



記憶力の喪失が癒される

Memory loss—healed

The Christian Science Journal, vol 127 number 1

クリスチャン・サイエンス・ジャーナルより転載 第127巻 第1号

私は、自分が記憶力を失いつつあるのではないかと思いました。5年ほど前、何も覚えていられないという状態になったのです。考えが来ずは、消えてしまい、何も残っていないのです。全く何も思い出せないということがよくありました。昔から慣れ親しんできた聖書の話、愛する人たちの名前、自転車の鍵の番号、そして、そのときそのとき、やっていること、すべてが消えてしまうのでした。

記憶力が戻ってくるようになったのは、次のように祈り始めてからです：「父よ、思い起こさせてください。それは、覚えていられるように」、ではなくて、「思い出させてください。あなたの現存を思い出させてください。あなたの現存で、私の意識を満たし、恐れや病気の間をすべて取り除いてください。私は、いつも、あなたのみを意識しています、あなた、つまり、心が含むすべての理念のみを意識しています」、という祈りでした。

時には、私は心の中で、ただ次のように祈りました：「ありがとう、主よ、私が知るべきことを、知っていてくださり、ありがとう。あなたの考えと知識を私に与えてくださり、ありがとう。私を加護してくださり、私はあなたの子であることを、私が独りぼっちではないことを、覚えていてくださり、ありがとう」。

他の日本語記事については、次をご覧ください：<http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙に転載する許可を得るには、copyright@cspcs.com 宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

聖書の一節、「**キリスト**・イエスにあったのと同じ思いが、あなたのうちにもあるように」(ピリピ 2:5、欽定訳聖書より)を、私は片時も手離しませんでした。そして、「**父よ、キリスト**・イエスにあったあの心が、私の中にもありますように」と祈りました。私はこの心が、神性であるため、考えの機敏さ、感知力、記憶力を備えていることを、知っていました。自分が、自分の**創造者**の知性、理解力、知恵から、切り離され得ないことを認めると、私の考えがその源から切り離され得るとか、私が**神**と離れた心を持っていて、忘れぼけたり、病気の心を持っているとかというような、虚偽の信念から解放されました。

この意識の混乱や恐怖のなかで、私は**神**から切り離され得ないということを、もっと意識するようになってきて、ある程度、心の落ち着きが得られるようになりました。**神**と一つであることが分かってくると、ストレスや、パニックがなくなり、励ましと心の平安を得ることができました。ある考えを知っているかどうか、ある仕事が達成できるかどうかということよりも、神性の心の現存を感じることの方が、大切なことになってきたのです。一瞬一瞬、**神**の現存を認めることが、自然な考え方になってきました。機会あるごとに、私は**神**に支えられていることを確認していました。こうして、その時々思い出さなくてはならないことを、思い出せるようになりました。驚いたことに、知っているとは思わなかった情報まで、考えに浮かぶようになりました。ある種の決断が、素早くできるようになり、問題の解決策も自然に示されてきました。一刻一刻、私は完全な思考力を現していることを、祈りのなかで確認していました、そして、それ以下のことは一切受け入れない勇気が、自分にあることも知りました。

神の現存を意識すること、そして意識し続けるということは、素晴らしい経験です。**神の言葉**は、いつも私が理解できる方法で私に語りかけているということが、もっとよく理解できるよう

になりました。神の言葉は、私たちに影響を及ぼすかもしれない人間的意見や恐れを排除して、私たちが正してくれるのです。聖書の「ローマ人への手紙」に次のように書かれています：「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである」（12:2）。そして、この「心を新たにすること」は、常に起こっているのです。

私にとって、この新たにすることとは、思考力を、完全に回復し、正常なものにすることでした。私自身、絶えず、自分は心の表現であるゆえ、完全に機能している自分の心が不在であることはなく、また、どんな他の心も、私と神の間に入り込むことはないことを、確認していました。この真理は、私に何か異常があり、私に何か知らないことがある、思い出せないことがある、という暗示を払いのけてくれました。John Greenleaf Whittier による賛美歌の歌詞、「私たちを、正しい心のうちに包んでください」を、喜びに満ちて歌っていました（『キリスト教科学賛美歌』50番）。私は、自分の心であると思っていたものを、手放して、謙虚に、神の「心の現存」に、正しい考えを一つ一つ求めてゆきました。

完全な癒しに至るまで、あきらめずに、祈り続けました、そして、数ヶ月のうちに、次第に、それまで感じていたプレッシャーや恐れが、消えてゆきました。自分がしていること、車の鍵をどこに置いたか、そして、他の人々の名前などを、覚えていられるようになったのです。なんとこの喜びでしょう！ 名前も、日時も、目的も、無限の心が伝えてくれることを、信頼していたところ、記憶に戻ってきたのです。

私は、今日も引き続き感じている、心の平安と健康に、深く感謝しています。

米国、フロリダ州、ベニス
リンダ・ディナルド
Linda Dinardo